伐採された園庭のクリの木を使って遊具制作中の林先生。

完成した「クリ基地」で遊ぶ子どもたち。

「2001年宇宙の旅」はBlu-rayのほか、DVD、さらにβとVHSを持っている。サントラも2種類。

うまくいかないと、『じゃあ、こうしてみよう』ってなる。それが楽しい

ぼくが園長をしている幼稚園で、園舎新築のため庭の木を半分くらい切ることになってね。切ないなぁって思いながら伐採される立派なクリの木を見ていたら、逆さまにすれば面白い遊具（彫刻）になるって思い付いた。カービングで失敗することもあるけど、子どもたちの秘密基地みたいになればいいなと、楽しみにしながらつくりました。

分からないって、ワクワクする

学生時代に「2001年宇宙の旅」を見たとき、さっぱり理解できなかったんです。でも見終わって、ボーっとしながらも「分からないって面白いなぁ」って思った。自分の分かる範囲にないものが、こんなにたくさんあるって思うと、なんかうれしいじゃないですか。

ぼくもいろいろやり直したいな

「恋はデジャブ」って映画、大好きなんです。タイムループに入って、同じ日を繰り返す哀れな男の話なんだけど、毎日どんどんやり直すんだよね。試行錯誤の楽しさっていうのにすごくフィットする。

映画とか音楽の話し始めると、もう止まんない

映画って分かんない世界を見せてくれる。それに、みんなで一生懸命つくってる姿が思い浮かぶと、もう嬉しい。音楽も音が集まってできあがっていく面白さがあるよね。「The Last Waltz」はThe Bandってロックバンドの解散コンサートの記録映画なんだけど、最後にボブ・デュランもエリック・クラプトンもニール・ダイアモンドも、ゲストが全員出てきて、ステージの上で“I shall be released”を歌うんですよ。涙なくしては見れないよね。もっと映画や音楽の話していい？「遊星からの物体X」に出てくるエイリアンはCGじゃなくて全部ものをつくってる。だから、それを後ろとか床の下で動かしている人がいるんだよなぁって想像すると、すごく楽しくなる。最近はDVDの特典映像で、監督のオーディオコメンタリーが付くでしょ。「あのときは火が舞台裏まで移ってたいへんだった」とかね、そういう話を聞くと「おー、がんばってんなぁ」って、つくり手側からも見ちゃう。話題になった「カメラを止めるな」もつくっている人たちの楽しさが非常に伝わってくる映画でね、拍手しながら見てた。2回行ったね。「シン・ゴジラ」は4回行った。昭和のガメラと平成のガメラは両方全集で持ってる。「ぼのぼの」もいいよぉ。ぼくが聞く音楽はクラシックが6割で、ジャズが4割。最近サックスを練習し始めて……。

図工のみかたのみかた

MIKATA NO MIKATA

図工の先生のそのまわり

今号の図工のみかた、林先生をかたちづくるもの。林先生が「いいな」と思う映画や音楽の世界を教えてもらいました。

学習指導要領

「主体的な学び」ってなんだ？

「いいな」(p.02)
↓
学ぶことに興味や関心を持つ

自分が決めたことだから(p.07)
↓
見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

今号のキーワードは「主体的な学び」。図工の時間、子どもたちは試す過程を楽しみながら、自分の「いいな」を見付けています。自分の「いいな」という価値基準で、自分のしたいことを決めています。そうやって自分で決めたことだからこそ、「こうしていこう」と粘り強く取り組んだり、「今度はこうしたい」と振り返ったりできるのではないでしょうか。そしてその繰り返しが、自分の人生を自分で決める姿勢へとつながるのではないでしょうか。

自己決定を尊重すること、それが「主体的な学び」の実現につながるのです。

学習指導要領　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

主体的な学び	対話的な学び	深い学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

※造形的な見方・考え方　感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編・図画工作編より）

表紙　『光のハーモニー』(5年生)

光と場所の特徴を生かして、空間の雰囲気を変える造形遊びの題材。自分が「いいな」と思った光の感じについて、「もっとこうしたい」と真剣に取り組んでいる瞬間。自分で決めて取り組んだという経験が、きっと次の「こうしたい」を生みだしていく。

平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書5・6上p.36-37

クリエイティブディレクター：池田晶紀（ゆかい）
アートディレクター：畑ユリエ
表紙写真：池ノ谷侑花（ゆかい）
フォトグラファー：池田晶紀、池ノ谷侑花、杉山亜希子（ゆかい）
イラストレーション：やまねりょうこ（ゆかい）

図工のみかた 09号

日文教育資料［図画工作］
平成31年（2019年）1月31日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33435

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［図画工作］

子どもの姿から図工を考える
号
09
2019.01

図工のみかた

INTERVIEW

林 耕史（群馬大学教授）

学習指導要領「主体的・対話的で深い学びってなんだ？②」

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！　日文　検索

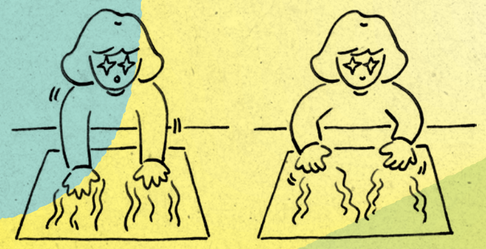
未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

図工ってなんだっ？

今号のキーワードは、
「主体的・対話的で深い学び」
の中の、「主体的な学び」。

子どもの姿と
図工の見方について、
図工の味方、
林耕史先生に聞きました。

語り手
林 耕史
（群馬大学教授）



試しながら、「いいな」が見つかる

林耕史先生（以下、林）：子どもって、ずーっと同じようなことをしているとき、あるでしょう。グルグルの線をかき続けたり、粘土をグニャグニャもんでたり。それって、実は、同じことを繰り返してるんじゃないかもしれない。

　2年生の図工で、液体粘土に絵の具を混ぜて、フィンガーペインティングを楽しもうって題材をしたときに、両手を絵の具まみれにして1時間中グシュグシュしてる女の子がいてね。よく見てると、手前から手の平を左右に揺らしながらフリュフリュってかいて、奥までいったらサーっと全部消す。次は、絵の具を握るようにクチュクチュしながらかいて、奥までいったら消す。そんなふうにいろんなやり方を味わいながらかいていた。ぼくが何かしなさいって言ったんじゃなくて、その子が自分で試して、やり直す。一つ試すごとに「できた」って感動はあるけど、そこに立ち止まらないで、どんどん自分を更新していってるんだよね。

編集部（以下、編）：いろんなやり方を試す中で、自分の「いいな」って思うことが見えてくるんですね。

林：そうなんです。そもそも試すことを何度も繰り返せるって、その状況を面白がっているってことだよね。ぼくは、子どもには「分からない」ってことを避けて通らない人になってもらいたいんです。分からないってことが面白い、うまくいかないってことが楽しい。そういうことを図工ではうんと体験できるはず。そうやって興味をもって試していることが、主体的な学びの入口になります。そのためには、いろいろ試したくなるような材料や、何度も試行錯誤できる十分な時間などの配慮が必要ですし、何より、試す過程を面白がれるようにすることが大切です。

はやし・こうし
1960年、長野県生まれ。公立小学校、中学校美術教諭、信州大学附属松本小学校、筑波大学附属小学校教諭を経て、現在群馬大学教授。同大教育学部附属幼稚園長、そして彫刻家。大学では彫刻指導にあたり彫刻を通した美術教育を追求中。'19年は、個展2回、中之条ビエンナーレなど展覧会3回、ほか国画会会員として国展などで彫刻発表が続く。日本文教出版小学校図画工作科教科書の著者の一人として美術教育の発展に努める。

「自分で決めた」ことだから

林：子どもの「いいな」を尊重するには、「上手」って言わないで、子どものしたことをそのまま言葉で伝えてくださいって話をよくするんです。子どもがグルグルと線をかいていたら、「たくさんのグルグルだね」って。それが、その子のやったことを認めることになる。子どもも「ぼくがグルグルたくさんかいたことを見てくれてる」って思います。でも「上手」って言うと、「これが上手って褒められるんだ」って、価値基準が自分の外側にできちゃう。「褒められるからかこう」って子と、「ぼくがかきたくてかいてんだ！」って子では、心の動きが違う。

編：「いいな」「こうしたい」と、その子が自分の価値基準でしていることを認める？

林：そう。それに自分で決めたことだから「もっとこうしたい」って真剣に取り組める。それが主体的な学びなんじゃないかな。だから、先生は「自分で決めた」ということをもっと認めてあげなきゃ。ある研究会で、絵の具を塗っている途中に筆を止め、しばらく考えて違う色を使い出した子がいたから、授業後にそばに行って「あのとき、色を変えたね。ああいうことはすごく大事だね」って伝えました。その子はキョトンとしてたけど。途中で色を変えた、ただそれだけ。でも「自分で判断して色を決めた」ことの意味の大きさを我々はもっと認めていくべきだろうなって思う。

　他には、自分で決めたことを振り返るのもいい。授業のあとで「これでいこうと自分が決めたところを指差して」と声かけをして、よかったことも悪かったことも「それをやったのは私だ」ってことを、もう1回その子に戻してあげてもいいよね。

編：自己決定を大切にすることが、「自分にとっての意味や価値をつくりだす」という見方・考え方にもつながる気がします。

林：図工って、自分の生き方を自分で決められる人を育てる教科だと思ってます。「この色でやろう」も小さな自己決定。そんなプチ自己決定が1週間に1回でも、1年で50回、6年間ならすごい積み重ねだよね。そうやって、自分で生きていく人に育つためのベースができるんじゃないかなぁ。

（関連）「子供が、『今日は何をやるのですか』と教師に聞くのは、関心や意欲をもっている子供の姿ではあるが、『今日はこんなことをしよう』と、自分で学習の見通しを立てることができるようにしたい。」（初等教育資料 No.961 p.4より引用）

子どもの「こうしたい」に気付く

林：子どもの「こうしたい」って思いに気付けなかった苦い経験があってね。昔、絵をかく授業で、パレットの基本的な使い方を教えたあと、すぐにパレットがグジャグジャになってる子がいてさ。その子に向かって、「パレットを正しく使わなきゃダメだよ」って言っちゃったんだよね、ぼく。そのあとで授業中に撮った活動写真を見て、「しまった！」って思った。その子は片方の膝を机に乗っけて、画用紙に覆い被さるようにして、筆先を凝視して、真剣にかいてた。パレットの使い方云々じゃなくて、「おお、いいかき方してるね」って言ってあげなきゃいけなかったんだって。

編：指導したことができているかを見ていて、子どもの「こうしたい！」が見えてなかったんですね。

林：たぶん、そう。その写真を見るたびに猛省。上手とか、先生の言ったとおりにしているっていうことのほかに、見るべきことがあるのにね。図画工作っていうのは、自分で前に進む力を培っている教科。「培う」って、育とうとしている苗の根本に土を寄せるっていう意味で、そもそも伸びようとしている子どもを先生は応援するっていうこと。もちろん技術を伝達するのも教師の仕事だけど、まずは子どもが自分からやろうとする気持ちを引き出してあげることが大事ですよね。子どもをちゃんと見たり、感じたり、受け止めるということに努めて、子どもの「こうしたい」に気付かないとね。

『カードを使って』

画用紙の枠で、机の模様を切り取る。
自分が「いいな」と思った場所でカードをつくる。
友だちとカードをじっくり見たり、見比べたりすると、
気になる形や色が見付かる。

（平成27年（2015年）度版 小学校図画工作科教科書5・6上p.10-11）

「いいな」は、自分が決める。

「これがいいな」と
見付けること。
「これでいこう」と
選ぶこと。
自分の基準で、自分で決める。

「できた！」のその前には、
その子の決めた
「いいな」があります。